



青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL https://www.tonyamachi.com E-mail info@tonyamachi.com 発行/2021年9月30日

待望の新型コロナウイルスワクチン接種はじまる

8月31日(火)に、当組合の新型コロナウイルスワクチン接種がスタートした。当日は、小野寺青森市長が視察に訪れ、多くのメディアにも取材されるなど、職域接種に対する世間の関心の高さがうかがえた。職域接種は、ワクチン接種に関する地域の負担を軽減し

が、新聞等で既報のとおり、開始時期が大幅にずれ込み、計画よりかなり遅れて接種開始となった。今回の職域接種を実施するにあたっては、医師・看護師の手に非常に苦慮したが、村上新町病院などの医療機関から協力が得られて接種できる運びとなった。8月31日からスタートした1回目の接種は9月12日まで8日間開催。接種対象は組合員企業の従業員や家族に加え、近隣企業従業員等にも門戸を広げ、接種者は3千3百人を超え、ワクチンの早期接種が図られた。



コロナワクチン職域接種



小野寺市長が視察来訪

問屋町会館2階で行われた職域接種では、多くの来場者があることからマスクの着用

今回お話を伺った後藤工場

とんやまちフラワースナップ

今回のとんやまちフラワースナップは、(株)伸和産業を紹介する。同社では3年ほど前から全社をあげて「思いやりと潤いのある職場づくり」に取り組んでいる。その一環として、弘前市にある本社や県内外の各事業所で花による景観美化整備を進めている。



伸和産業の花壇



大会議室で接種後の経過観察



各ブースで看護師がワクチン接種

や人と人の間隔を十分にとるなど、コロナ感染防止対策を徹底。ロビーで受付をし、小会議室で問診と接種、接種後の15分の経過観察(待機)は大会議室で行われた。会場スタッフは事務局職員に加え、青森県立保健大学の学生アルバイトが担当し、大きな混乱もなく進められた。組合ではこの後、9月下旬から10月上旬にかけて2回目の接種を行う。ワクチン接種が進み、安全・安心な職場環境が整い、経済活動の早期回復が期待される。

社会福祉大会で 感謝状受贈

当組合が、第70回青森市社会福祉大会において、青森市及び青森市社会福祉協議会より感謝状を受贈した。

組合では2015年から毎年、空き缶・ペットボトル等のリサイクル回収で得られた収益金を青森市社会福祉協議会へ寄付している。これまでの社会福祉向上への貢献が認められ、このたび感謝状が贈られることとなった。

8月24日(火)にアウガで開催された社会福祉大会では、青森市社会福祉協議会の

案内看板を修繕

組合では、問屋町2箇所、第二問屋町2箇所の計4箇所に設置している案内看板の修繕工事を実施した。

組合員企業へのナビゲーション



キレイに蘇った案内看板

窪田会長から組合の藤本専務理事に感謝状が手渡され、感謝の言葉が述べられた。

組合では、今後もリサイクル回収で得られる収益金の寄付を継続し、社会福祉発展に寄与していく。



社会福祉大会で表彰

SDGsへの 取り組み進む

組合では、今年度をSDGsと位置づけ、昨年度SDGs推進委員会できりとまとめた推進方針に従って活動していくこととしている。

今回、その一環として、第二問屋町共同倉庫の壁面にSDGsをPRする看板を新設した。同看板は夜間ライトアップされ、昼夜を問わず行き交う市民に取り組みを広くアピールしていく。

また組合では、組合員に対するSDGsの認知度向上に向け

コン機能向上を目的に設置された案内看板であるが、老朽化による板面劣化や支柱の腐食が進み、見た目が悪化していた。修繕された看板は新設当初に回復し、美観が大きく向上した。

組合では今後も案内看板やゲートサイン等の維持管理を継続し、団地内の景観整備に努めていく。

ワクチン手帳販売

弘前市の印刷会社(有)アサヒ印刷が製作した「ワクチン手帳」(1冊200円)が問屋町交流ストアでも販売されている。



ワクチン手帳

ワクチン手帳は、いつ、どこで、どんな種類のワクチンを接種し、どんな副反応があったかを記録できる手帳。使った方を記録できる手帳。使

い方はコロナワクチン接種後に予防接種済証シールを手帳に貼るだけ。当日の体温や副反応があった場合の記入も可

アメリカシロヒトリ大量発生

8月下旬から、問屋町内でアメリカシロヒトリ(蛾)の幼虫が大量発生している。同虫の大量発生は6月に続いて今年2回目。今回は6月以上に各所で大量に現れ、特に問屋町に隣接する大星神社ではほぼ全域の樹木に発生し、近隣にも影響を及ぼしている。

同虫に毒はないが、植物を食い荒らして枯らし景観を損なうほか、毛虫の駆除に大変苦慮する。6月から7月、9



アメリカシロヒトリの幼虫が大量発生

月に多く見られ、幼虫(毛虫)の巣網の段階であれば容易に対処できるため、時期になったら自社敷地内の樹木等の確認をお願いする。

組合では駆除業者の斡旋もしており、お問い合わせは(☎73814711)まで。



共同倉庫に設置されたSDGs看板



無料配付したSDGsピンバッジ

た働きかけとして、1社に2個ずつSDGsピンバッジを無料配付した。このピンバッジは国連本部から購入した正規品で、問屋町会館内にある問屋町交流ストアで1個500円(税込)で販売もしている。

SDGsに配慮していない企業は今後、顧客や取引先、就活生から選ばれない企業になると言われている。組合員のSDGsへの取り組みが遅れないよう、組合では積極的にサポートしていく。

おいしいお菓子づくりのお手伝い

お菓子とパンの原料専門店

(株)元木商店

本社 青森市第二問屋町三丁目2番12号 TEL 739-9061
八戸店 八戸市類家五丁目2の14 TEL 45-2755

Thanks 100th Anniversary



株式会社吉田産業 青森支店 支店長 中村 好昭

〒030-0131 青森県青森市問屋町二丁目19-14 TEL:017-728-2111 FAX:017-738-8110
事業内容:建設資材、環境資材、土木資材、住宅設備機器の販売および施工、気象情報の販売

問屋町たんしん

▽第45回問屋町ボウリング大会
 昨年度同様、コロナウイルス
 感染症予防策としてソーシャ
 ルディスタンス確保のため、
 1チームごとに1レーンずつ
 空きレーンを設けて競技を行
 う。そのため、競技は2日間
 に分けて行い、表彰式は別途
 開催する。

①日時
 11月26日(金)・12月3日(金)
 各日 19時～20時30分
 ②会場
 アオモリボウル(青森市安方)

③参加料
 1人1,200円(税込)
 ※2ゲーム開催



昨年度のボウリング大会の様子

④定員	120名
⑤表彰式	12月9日(木) 12時15分
会場	問屋町会館 2階大会議室
主要事項	8月 3日▽安協問屋町支部第1回街頭指導 4日▽第3回問屋町地区健康診断
問屋町ビジネススクール	19日▽会計経理の基礎講座・実践編① 24日▽会計経理の基礎講座・実践編② 26日▽会計経理の基礎講座・実践編③
その他	5日▽第5回問屋町合同清掃 6日▽第1回税務研修会 16日▽金融審査会 24日▽安協問屋町支部第2回街頭指導 31日▽新型コロナワクチン職域接種

経済雑感

(公財)21あおもり産総合支援センター
 専務理事 津島 正春

前号に引き続き、21あおもり産業総合支援センターの津島専務理事による経済雑感をお送りする。

りんごの生産工程を記録、管理するアプリをIT会社と共同開発したもりやま園(株)の森山社長は、アプリ紹介ページで「手作業が多いりんご農家。大規模なりんご園を続けるためには昔ながらのやり方から抜け出す必要がありました。生産工程を可視化するツールを作り、使ってみてわかったのですが、りんご栽培は年間75%の時間を使って葉っぱや枝や実を捨てる作

業だったんです。検証の結果、メリットをもちたらしめていない作業は辞めました。いまは、摘果した実でシードルを作ったり、剪定した枝でキノコ栽培をはじめたりしています。私はりんご畑を成長産業に変えて、20年後の人たちにいい仕組みを残したいと思っています。



(公財)21あおもり産業総合支援センター
 専務理事 津島 正春氏

「データにより、りんご作りは、摘果(実すぐり)が30%、着色管理(葉摘み、玉回し)が30%、剪定(枝切り)が15%と合計75%がひたすら何かを捨てている時間だったということが判明した。森山社長は、これでは労働生産性が悪いのも当たり前前と考え、改善するために不要な作業は見直し、捨て

るものを活用できないかと考え、摘果りんごを原料としたシードル開発に取り組みことにした。7月に収穫できる摘果りんごは秋の台風による成熟りんの落下リスクの分散にもつながる。現在は売上の7割がシードル等の加工品、3割が青果だという。ペテラン農家のカンだよりの昔ながらのやり方では将来はないと考えた森山社長は現状を確認するため

に、りんご栽培の生産工程を管理・記録し、データを積み重ねたうえで分析し、新たな経営戦略を策定していった。それはまさにデータの重要性を認識したデジタル化による経営革新である。

(元)

建設機械 販売/リース/サービス

株式会社 ほくと

代表取締役 川村 雄 藏

青森支店 〒030-0112 青森市第二問屋町三丁目11-16
 Tel.017-739-5771(代) FAX.017-739-5723
 (URL) http://www.hokuto.com

農林業・汎用機械 卸/販売/サービス

株式会社 ガスデン

ホンダ ヤマハ ゼノア オーレック その他
 除雪機 発電機 草刈機 耕うん機 など
 家庭、事務所に、小型でちょっといいモノを

青森市第二問屋町4丁目2-26 TEL: 017-739-7422
 E-MAIL: gasuden@k4.dion.ne.jp FAX: 017-739-8186

〒030-0113 青森市第二問屋町四丁目11-18
 TEL: 762-1411 FAX: 739-7771 https://www.soft-academy.co.jp/

株式会社 ソフトアカデミーあおもり

●システム企画・開発・運用 ●IT教育 ●給排水CAD・申請 ●施設賃貸事業

私達はIT教育と企業の情報化推進のサポートをします

事務機・事務用品の総合商社

〒030-0113
 青森市第二問屋町三丁目3-34

株式会社 金入 青森支店

TEL 017-739-9001
 FAX 017-739-9011

組合員が移転し 新社屋で営業スタート

組合員の青果流通機構(株)が問屋町内で進めていた施設改修工事がこのほど完了し、7月28日より新社屋での営業をスタートさせた。

2014年3月に問屋町に加入した同社は、青果物の卸売に加え、青果物加工製品の開発・製造・販売を手掛ける。これまでには組合管理施設を賃借して業務を行ってきたが、建物の老朽化や設備の保管能力不足に苦慮していた。

同社ではこのたび、高度化資金を活用して撤退組合員の跡地を取得し、移転した。新社屋移転にあたり、建物を改

修して設備を一新。作業環境が整い、作業効率の向上が期待される。

今回、青果流通機構が活用した高度化資金とは、中小企業組合員が、組合のエリア内における土地・建物等の設備、新築やリニューアル等の設備



移転した青果流通機構新社屋

投資に対し、中小機構(国)と都道府県からアドバイスを受けながら、長期20年低利(2021年度・0.35%)の固定金利で融資を受けられる制度である。

また、組合員の(株)神山も、8月2日から新社屋での業務を開始した。学生服や祭り用品の販売等を行う同社は、1968年6月に問屋町に加入。建築から50年以上が経過した社屋の老朽化に悩んでいたことから、組合管理施設を賃借して移転することとした。



移転後の位置図

社屋1カ所に集約され、保管機能が向上し、業務の効率化が図られた。
▽青果流通機構(株)
新住所・問屋町二丁目12-25
▽(株)神山
新住所・問屋町一丁目6-6

団地企業訪問

今回の団地企業訪問は、(株)角弘の船越社長にお話を伺った。

同社は、明治16年に近代農具関連の制作販売を目的に弘前農具会社として設立。現在は建築資材・土木資材・住宅資材などの建設工事関連事業を中心に、燃料関連事業やプロテオグリカン事業など「建設から暮らしまで」地域社会の多様なニーズに応え、来年で設立から百四十年を迎える。現在、青森市新町地区の再開発事業の一つとして、本社一帯に2棟の複合施設を建設している。ウエスト棟は13階建てで1、3階に店舗や事務所、4階以上には

ビジネスホテルが設置され、センター棟は18階建てで1、2階に店舗、3階以上には集合住宅を整備する予定となっている。



(株)角弘
代表取締役社長
船越 秀彦 氏

「当社の本社ビル建設を含め、中心市街地では駅前や新町周辺で建物や設備が次々とリニューアルされています。それに伴って街への来訪者や居住者が増加し、飲食店なども増え、新しい賑わいが生まれるのではと期待しています。また社内的には、毎年ターゲットを決めて仕事に取り組んでいます。社員自ら行動しないと自身の進歩もなく、会社も成長していかない。自

分の持つている長所を活かし、失敗を恐れずに考えて行動することで大きく成長してほしいと願っています。去年は『自己改革』にしました。そして今年のターゲットは『拠点充実』です。去年の自己改革で成長した力を活かして、次はチームとして各拠点の成長を促すことで確固たる基盤を作り、各地域どこにも負けないようにすることを目標としています」と力強い。

「ゴルフとボウリングが大好きです。数年前から足腰の調子が芳しくなく控えていたのですが、今年、ゴルフの練習

編集後記

ようやくコロナワクチン接種種がはじまり第一回目の接種を無事終えることができました▼受付を始める会場スタッフは組合職員と学生アルバイトだけで担当しました。トラブルも無かった訳ではありませんでしたが、見事に現場力で運営してくれました▼これもインフルエンザ予防接種等で培ったノウハウかと思えます▼転話題。今号は、企業実務8月号の銀行融資コンサルタント・瀬野正博氏の「ポストコロナ後の金融機関の融資姿勢の変化」という特別記事が目を引きました▼「ローカルベンチマーク(通称ロカベン)」というツールを紹介した記事です。2016年に経産省が開発したツールで、企業経営者・金融機関・支援機関が企業の経営状態を把握・共有し、事業性評価の入り口として活用されることを目的とし、ネットで公開されている便利なツールです▼ロカベンには、財務情報と非財務情報に分けられます▼財務情報は次の6つの財務指標です。①売上増加率②営業利益率③労働生産性④EBITDA 有利子負債倍率⑤営業運転資本回転期間⑥自己資本比率▼非財務情報は次の4つの視点です。①経営者への着目②事業への着目③企業を取り巻く環境・関係者への着目④内部管理体制への着目▼財務情報は過去の企業活動の結果ですが、非財務情報は、今後どのような点を改善すれば企業の健康を維持・回復できるのかといったことを、考えるためには欠かせない最も重要な要素といえます▼やはり方は公開されていますので、自社のローカルベンチマークを作成されることを強くお勧めします(藤本)

未来からの、ありがとうのために。

青森銀行

暖かく快適な窓辺をお届けします!

冷え対策は窓から。

マドリモ APW 430

長内サッシ工業株式会社
青森市問屋町2丁目12-35
TEL 017-(728)-1311

MADO 青森中央店